

令和3年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・**最終**)

面城中学校区 校番 20 学校名 呉市立港町小学校

a 学校教育目標	貫 心豊かに 自立する	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション>(学校の使命) 社会で生きる力の基礎を培い、未来社会を切り拓く児童を育成する <ビジョン>(将来の学校像) 幸福度No.1の学校 「学ぶなら、働くなら、通わせるなら、港町小で」と思える学校を目指す
----------	-----------------------	----------------------	---

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	本校では、中学校区の「三川教育プラン」に則り、基礎基本の定着と主体性・思考力・判断力・表現力の育成、自己肯定感の向上、体力の向上について具体的な取組を進めてきた。昨年度からは特に主体性の育成に重点をおいて取り組んだ。その結果、主体性については一定の成果をあげることができた。一方、コロナウイルスの感染防止の影響で体力や生活習慣は低下する結果となった。 今年度も引き続き教育活動全般で主体性を育むことを基盤とし、ICT機器を活用した対話的・協働的な学びを推進するとともに、体力や生活習慣の向上・改善に取り組む。
------------------------------	---

育成を目指す資質・能力	○知識・技能 ○思考力・判断力・表現力 ○主体性
-------------	--------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1 2 ・ 3 年目)	自己評価
---------------------------------------	------

重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	9月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
貫 *** 主体的な学びの推進による基礎基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成		<ul style="list-style-type: none"> 算数科の授業研究を通して、基礎基本の定着と主体的な学びを推進する。 総合的な学習の時間において、対話的・協働的な学びを工夫することで、思考力・判断力・表現力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数科においてスキルタイムを継続して行い、基礎基本の定着を行う。 「教えて考えさせる授業」を実践する。 課題発見・解決学習に沿った思考方法を意識した授業改善を行う。 ICT機器を効果的に活用する。 	算数科市販テスト平均点	80	82	103	A	80	100	A
						80	88	110	A	94	117
貫 ** 自他を大切にしながら高まり合う児童の育成		<ul style="list-style-type: none"> 縦割り班活動等の充実や相互評価の工夫を図ることで、自他のよさに気づき、互いを思いやる態度を育てる。 響き渡る挨拶(校内、友達、来校者、見守ってくださる地域の方等)を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会で〇〇名人を表彰・放送する。 友達と認め合う取組を1・2学期に行う。 6月・11月・2月に、5・6年に向け、掃除等の感謝の言葉を伝える。 運動会、学習発表会、縦割り掃除などの目標設定と振り返りをする。 見守ってくださる地域の方との顔合わせ会をする。 月初めにあいさつ強化週間を行う。 あいさつ名人認定を行う。 	児童アンケート	75	96	126	A	95	126	A
				「あいさつ名人」認定率	70	57	81	B	71	101	A
				児童アンケート	90	65	72	C	94	104	A
* 社会で生き抜くための体力と生活習慣の向上		<ul style="list-style-type: none"> 外遊びの充実により、体力を向上させる。 基本的な生活習慣の質を高め、メディアコントロールができる子どもを育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育朝会・外遊びキャンペーン等を活用して、外遊びを習慣づける。 走力を伸ばす運動を学期に1回紹介し、体育科で取り組む。 生活リズムばっちり週間を学期に1回設け、自らの生活を振り返らせ、規則正しい生活を習慣づける。 メディアコントロール期間を6回設け、メディアコントロールを意識づける。 	50メートル走の記録が、県平均を上回っている児童の割合	60	44	73	C	52	86	B
				平日メディアを見た時間が1日2時間未満の児童の割合	60	66	110	A	65	108	A
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 児童と向き合う時間を確保する。 長時間勤務の削減を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務を分掌部会で明確に分担することで、主任の業務を軽減するとともに、主任以外の校務運営参画を促進し、人材育成の機会としていく。 「目指す児童の姿につながるか」を規準に毎月の分掌部会で業務改善策を考え、企画委員会が審議し、実現に向けていく。 	児童と向き合う時間を確保されていると感じている教職員の割合	75	70	93	B	70	93	B
				在校時間外勤務が45時間未満の教職員の割合	100	79	79	C	86	86	B

【k:評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60